

談叢

東満瞥見

正会員 町田義知*

北満の夏 「今年の夏は蒸し暑くて日本の様だ」との聲をあとに、七月中旬から東安、虎頭難寧、綏芬河、方面観察の旅に上る。

北満の夏は冷氣爽快、特に朝夕の爽かさは格別である。又、野外に出ると澄みきつた、洗つた様な深緑の中に、桔梗、女郎花その他名も知らぬ清楚な草花が一面に咲き乱れ、目をあければ廣く高い紺碧の蒼穹に雄大な夏雲の連峰を浮べて、何とも云へず美しい。

然しこれが二ヶ月前迄は白皓々たる雪氷原であり、あと二ヶ月もすれば褐一色に漁り潰された林野原になるのだと思ふと餘りにもあはたゞしい季節の轉變に驚かされると同時に長い長い陰氣な冬をこの土地で過す現場勤務の人達の苦痛がしのばれて胸がいたむ。

湿地行 道路並に穆興水路観察のため寺師處長に案内せられ伊藤處長其の他の人達と徒步行軍に出かけ穆陵河の平野を二日間に亘り約五十軒抜涉した。穆陵河の平野は野草に飾られて美しく又湿地の草は根元にヒタヒタと水をたたへ恰も日本の水田を見る心地がして嬉しい。

此の附近は一望千里荒漠としてみてどこが冰路になるのだか何だか地圖でも讀げない限り一向に見當もつかないが、やがて水路が完成し道路が出來てこの涯てしなき大平原が一面の美田に開拓され見渡す限りの湿地草が稍にかかるのかと思ふと我々の瞳は誠に朗かに輝く。

然しこの方面の開發は古くから考へられてゐたものらしく、襄東附近には張作霖が建設した道路が残つてゐるこれでみると當時既にこの方面的開拓、乃至は沿海州との連絡を計畫してゐたものと思はれるが當時の情勢下に於てこの僻遠の地にこういふ計畫を樹てたなどとは張作

霖も仲々いい所があつたものだと感心させられる。

穆陵河は最近の雨で氾濫を始め未完成部分の湿地横断には膝から股位迄もつかり、相當な難行軍であつた。然しお蔭で「聞いて知る飯の味」宿舎に着いてからの飯の美味しさは何物にも替へ難く、こうなれば世の中に、食ひ物の不平などなくなるだらうと思ふのだが、それにも増して樂しさうなのは伊藤處長の一杯である。その如何にも喜しさうな様子を見ては闇魔隕も微笑み出すだらうと思はれる。この閣下晝間は足に豆を出したり、湿地の中で股位もある水の中に轉倒したり、歩行頗る御馴稚の様子に拜せられたが宿舎の一杯であらゆる勞苦を帳消しにして居られるらしいから結局世の中は實に公平なものだといふ結論に達する様だ。

一同の一番參つたのは第二島の最後の湿地で腹迄水につかつてジャブリジャブリとやつた。時である。穆陵河畔、我等の徒步行程の終點も目の前に見へ、疲れた足をひきづり乍らやれ喜しやと思ふ間もなく最後の大きな湿地にぶつかつた。そこへ満人の勞工が来て、「この湿地はとても深く胸迄位もある」といふ。これには一寸感かされたけれども大體彼等は白髮三千丈の類ひの形容詞を使ふ人種だ。大したことはあるまいと話し乍らそれでも用心のため、服を脱ぎ裸一つになつて涉る。すると、成程今度の湿地は深い。水は膝から股へと段々に深くなつて来る。然しこの位迄は覺悟の上だから別に驚かないが、これ以上翠丸迄何とかして濡らさないで渡らうと思つて用心をし乍ら爪立つて徐行する。けれども水深の方は遠慮なく増して來て到々翠丸迄も水没してしまつた。

「背の低い者は損だなあ！」

と後の方で誰かが哀れな聲を出してゐる。然し天は

こゝでも公平であった。水深は到々溝丸を通り越して跨道もつかつてしまつたので背の高さも低きも溝丸を漏らしたことには變りはない。

こうして夕方五時頃後河畔の山形中隊着水門工事を視察こゝからはトロに乗つて湖北に向ふ。トロは土工用のもので之に苦力が三名乗り水掉ならぬ陸岸をしトロを舟の様に押し進める。これでも時速6~7軒位はある。

我々は疲れた身體をトロ台の毛布の上に延ばし、緑の草の大庭に掉し北満の爽かな夕べの微風に汗をおさめて進む。爛漫たる野草の美しさ、疲れた足にトロの快的さ湖北で食べた、支那料理純白な飯の美味しかつたこと、何れも一生忘れられない思ひ出である。

労務者 東安工程處では吉林省からの供出労務者を使ひ全部直營によつて仕事を進めてゐる。完全なる直營によるのは今年初めての試みであるから、寺師處長以下の苦心は歎かしと察せられるがその成績は頗る良好である。それには供出労務者の素質が昨年のもの等に比べ格段に良好であることも大きな一因ではある。

労務者の中には浮浪者で身代りに來てゐる者もあるが大部分は純良な農夫である。從つて最も厄介な逃亡も極めて無い。それも身代り労務者中の一部が輸送途中に妄想におびやかされて逃亡したのであつて到着後様子がわかつてからは一人もない。そしてお世辞の上手な彼のことではあるけれども

「大人の所へならば來年も働きに來たい」

などと云つてゐる有様である。勤務時間は他所と變りはないが朝起きると國民儀禮をやり、現場への往復は四列隊で道具を肩に歌などを合唱し乍ら進行する。又我々が行けば整列をして「頭ア右ツ」をやる。從來の土工労働者はまるで匪賊か何かの様に感ぜられるものが多かつたが之等の手合ひと比較すると誠に豊饒の差であつて實に氣持がいい。こうなれば占めたものであつて逃亡者のないもの當然だと考へられる。

賃銀は一率に1圓80銭、休場者には食費だけ六十銭を給する。即ち最も能率の擧らない方法、つまり定儲といふ形にきめられてゐるのだから如何にして能率をあげ

させるかといふことが各工區で最も苦心してゐる點である。これ等の獎勵方法としては

(イ) 每日の仕事の出來ばえにより最優秀小隊に優勝旗を授與しこの旗の多きを以て組の名譽とする。

(ロ) 最優秀成績をあげた組には白麵地下足袋等を贈付する。

(ハ) 受持區間を定めそれを完成すれば歸郷せしむ。等いろいろな獎勵方法を試みてゐるが何と云つてもこの最後の方法の「早くすんだら歸してやる」といふのが最も直接的で且つ効果的ださうだ。

作業能率は昔の山東苦力の最優秀なものに比べれば未だしの感あるも相當な成績をあげてゐるのは頗る嬉しい。

雞寧工程處では全部請負でやつてゐるので情勢はコロリと違つて来る。こゝの労働者は國內及び國外の専門労働者だから全く苦力といふ感じのする團體であつてわかれのよれよれになつた様な着物を着た實に汚い連中である。そして國內募集の連中は全く鳥合の衆で逃亡者讀出之には請負人も手を焼いてゐる様である。然し國外の者は仰々よく統制がとれて居り又非常な熟練工だから労働時間も長いけれども作業能率は實に驚くべきものがある。この點は國內の供出労務者の場合にも参考とする要があると思ふ。

労務管理 東安工程處の労務管理は一言で云へば頗る良好と云へる。住居はアンペラ葺きに野草を塗わた並通のもので特にどうといふこともないが概して清潔であり食糧も充分、衛生状態も可良である。而も醫者がついてゐるから處置も申分ない。病人も大てい寝冷え腹痛位の者が多く傳染病は発生してゐない。現場には輕症者を容れる病院があり(尤も之もアンペラ葺きだが)重症者は本部に送る様になつてゐる。阿片鬱患者肺病等の重い者は送還してしまつたので今は頑健な者ばかりであるたゞ入場當時は花柳病等が相當あつたさうだ。之等の中には前から病毒を持つてゐた者もあるだらうが供出直前に感染した者が多い由である。これは錢別や派別で金が手に入つたのと遠方へ出かけるといふ心の弛みに「タガ」を外したためと思はれる。現場では手術も出来る様になつてゐるので横痃なども隨分切つたさうだが満系は慣習

上身體を切ることを非常に嫌がるのでいろんな奇談がある或る患者はそれで隨分我慢してゐたが到々やり切れなくなつたので病院へ出かけお医者さんの前へそつと一金2圓也を出して

「どうぞ痛くない様に手術して下さい」

と云つたとか全く作り話の様なこともあつたといふ。

然し何はともあれ、昨年方々で懲罰も耳にした労務管理が非常にうまく行つて病人はなし隊員の規律はよし、何等の不平もなく張り切つて作業に従事してゐるといふことは誠に素晴らしいことといふ外はない。

刑　　罰 老某營へ行つた時工區詰所の前に2人の逃亡苦力が捕られてゐた。この連中は食糧やその他いろいろなものを盗んで逃亡しかけた所をつかまつたのだがこの内の1人は賊賊上りらしいとのことで成程人相も實に極悪な悪い顔をしてゐる。而も最初麻縛で捕つてあつたのを切つて逃げ出したとかで今度は八番縛で捕つてある。明日は警官が來るのでそれ迄縛つておくのだが夜は組員が數人不寢番をやるのだといふ。この苦力はつかまつた時苦力頭に散々やられたさうだがすぐそのあとで「没關係」と涼しい顔をしてゐたといふから全くあきれる外はない。

こういふ連中は前借金詐取の常習犯でどこへ行つても決していいことはしない連中である。善導しやうにも方法はなし殴つたつて「没關係」であり刑務所に入れればたゞ食はして貰ふから「謝々」である。こういふ連中の處分はよほど考へる必要があるのであつて世の中に百害あつて一利なき存在は断乎たる處置をした方がいいのではないか。どううか。

東安の或る兵舎の前で人の大せい通る道端の電柱に捕られてゐる満人が居た。よく見ると頭の上方に「煤小盜兒」と書いてある。成る程これはいゝ。だが盗んだ物を足元に据えておいて通行人がそれで犯人の頭を一つづく殴つて通ることにしたら尚面白いかも知れない。兎も角兵隊さんだからこういふ小氣味のいい處置が出来るのだらうが新京などの様にコソ泥の多い所では何とか有効な處置は出来ないものだらうか。

大陸滿洲に於けるが如き無智の連中を相手に、先進國

と同様な文化的刑罰を科するといふことはその効果果して如何。又現今はあらゆることが全體主義的國家的に統制されつゝあるに拘らず刑罰だけには依然として自由主義時代の香ひが濃厚なのは何としたものか。闇に對しては罰金刑と言ふのではつかまつた場合の罰金を計算に入れて闇をやる心得者が出来る。闇の惡質なものは獨乙の様に死刑にしてラヂオで放送する位の處置が必要ではないか。最近日本で定められた様に燈火管制の際に於ける婦女への暴行は嚴罰に處するといふ時局性を加味した法律は甚だ我意を得た行き方であるが又滿洲にはその特殊性を考へた刑罰をやつらと思ふ。

旅　　館 最近の旅館のサービスの惡さは全般的現象であり、人情の輕薄さを示すもので何とも情ない次第である。「砂糖がないから紅茶は注文しても出さぬ」などといふ類ひならば話はわかる。然るに、女中が大せい姦しくお喋りしてゐてもお客様の脱ぎ捨てた洋服け決して掛けてくれずハンカチや靴下を洗濯する等とは思ひもよらない。たゞ食事を運ぶこと、布団を敷くことだけが仕事だといふのが最近の現象である「サービスはなくともお客様は押すな押すなで来るからサービスするだけ損だ」といふのかも知れぬ。然し大和撫子といふものはこんなものではない筈である。高慢ちきなヤンキーガールと違つて親切で淑かなかが彼女等の最もいゝ所である筈だが、これも結局強烈な旅館主の指導方針の惡さによるものだらう。こういふ連中が銃錢を守れとか何とか云つて見たつて全く「ナンセンス」だといふ気がしてならない。

今回の旅行中この最も典型的なものを見つけられたのが東安である。これは亦何と呆れ果てたものだがこうした世の中で而も世界の酒での様に思はれてゐる虎頭と綏芬河で素晴らしい待遇を受けたのは都會地のサービス惡さと對比して實に感深きものを見えた。旅館はウスリホテルとボクラホテル。家はさう立派ではないがその女中は何れも若くて美しく気がきいて親切だ。宿に着くと脚絆を脱がしてくれるし服は脱ぐとすぐ受取つて掛ける。風呂と云へばすぐタオルと石鹼を持って案内し、シャツ等の汚れ物は全部洗濯して呉れる。誠に浅季の世

の中に稀らしいことだと感心した次第である。

綏芬河の出来事であるもう夜も更けたので寝やうと思つて女中に席を延べて貰つた。早速布團の中に入つて新聞を読みかけたが電燈が部屋の真中にあるので丁度自分の腹の上あたりになり寝て新聞をよむには一寸具合が悪い部屋を片付けてゐた女中が

「電燈の具合が少し悪い様で御座いますね」

といふのでなにちきに眠るのだからかまはないよ」と云つてそのまま新聞をよんでみると何だか女中が帶

を解く氣配である。

「？」

自分の目は新聞に注いだまゝ全神經はそちらに動員させられてしまつた。しばらくすると「シューツ」と音がして帶を解いた模様なので「ヒヨイ」と目をあけると眞紅の腰紐を解きそれで電燈を頭の方へ引張り光線の具合をよくしてくれた。この赤い親切は到々朝迄夢の中にもチラチラしたがこうした宿屋が満洲にもあるといふことを發見したのは近來の快心事だと思つてゐる。

會費納入に就て御注意

本会員の會費は下記の通り規定されて居ります。尙正會員、准會員には會誌を二種配布の關係上臨時會費を納入願ふ事に成りますから御承知下さい。

會員種別	年額會費			第1期分	第2期分
	會費	臨時會費	合計	自1月至6月	自7月至12月
正 會 員	1200	600	1800	900	900
准 會 員	900	400	1300	650	650
學 生 會 員	600	—	600	300	300
副 會 員	400	200	600	300	300

備考 ①會費の納期は第1期分3月、第2期分は9月の2回に分納願ふ事に成つて居ります、納入の通知が御手元へ参りましたら直に御拂込下さい。

②會費納入に就ては送附します振替用紙御利用下さいと拂込料金不要です、御旅行其他御不在の場合でも拂込に支障なき様御配慮願ひます、尙振替貯金事務を取扱はざる地方に在住の方は爲替其他適當の方法にて御送金下さい。

③新入會員の會費並轉格の場合は月割計算とします。

④會費御拂込後領收書は普通御送り致しません、特に必要の場合又は御不審の點あります場合は御一報下さい。